

令和6年度 長崎市立形上小学校 学力向上プラン

日本国憲法・教育基本法
学習指導要領
長崎県教育振興基本計画
長崎市第4次総合計画
長崎市教育振興基本計画

学校教育目標

考え判断し自ら行動する、やさしく
かしこく たくましい 形上っ子の育成

○地域の特色・地域の願い
○児童の実態や願い
○保護者の期待・願い

<教師の指導力向上>

○学習指導要領が求める授業実践
○児童の課題に応じた授業改善
○きめ細かな児童理解と指導

めざす児童像

○考える子 ○がんばる子
○たくましい子 ○磨き合い優しい子

<本校の重点課題>

○学力向上の実現
○特別支援教育の充実
○自信と実践力を備えた児童育成

学力向上の重点目標

★児童の実態（学習に向かう姿勢・学力調査の結果）をもとに、基礎基本の力の向上と主体的な学びの習得を目指す。
★授業改善や家庭学習等の取組により、昨年度の学力調査の平均点を上回る。（前学年の平均点）

学力向上の指導の重点

- ① 教科問わず「書く」活動の設定
- ② 「読解力」の育成
- ③ 学級版「学力向上プラン」を作成し、個別支援の充実
- ④ ICT・Chromebook の日々の活用

授業改善

- * 「めあて」と「まとめ」が子どもに届く問題解決的な指導過程を踏えた授業展開を行う。
- * ねらいに即した「書く活動」を授業の中に取り入れる。
- * 「読解力」の育成を図る。
 - ・読み取りの技能を指導。
 - ・叙述に即して読み取らせ、発言にも根拠をもたせる。
 - ・文章だけでなく表、グラフ図からも読み取らせる。
 - ・「読書タイム」の充実。
 - ・文法の指導。
 →単元末テスト平均 85点以上
- * 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて
 - ・追究する課題の設定
 - ・課題解決への見通しの理解
 - ・相手に分かりやすく伝えることを目的とした対話活動の実施（広げる・深める）
- * 支援を要する児童への個別課題
→ 学びの定着・主体的な学び

学力調査から見られる課題

	国 語	算 数
1 年	・文意を正確に捉えたり、事実や思ったことを書いたりする力が課題。	・10までの計算はできるが、指を使って行う児童がほとんどである。長さなどの測定領域が課題。
2 年	・拗音、促音、長音などの基本的な文字の記述、読解力、書く力が課題。	・「長さ」「かさ」の単位換算や、時刻と時間の意味・時刻と時間の求め方に課題。基礎的な計算力にも課題がある。
3 年	・読解力や与えられた情報の意味を理解し、条件に沿って文章を書くことが課題。	・「かさ」「箱の形」での誤答が見られた。量感や立体をイメージできていないことが課題。
4 年	・「話すこと・聞くこと」、「物語の内容の読み取り」等に課題がある。	・「わり算」、「□を使った式」において課題がある。
5 年	・読み取りは、県の平均と同じかやや上だが、他の領域に比べると正答率は低い。	・分数の意味や図形の性質を理解できていないことが課題。計算でのミスも見られた。
6 年	・どの領域においても、概ねよくできているが、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表すことが課題。	・求め方と答えを式や言葉を用いて記述することや、表から必要な情報を読み取ったり比較したりすることに課題が見られる。速さの理解が十分でない。

■学級担任によってより詳細な分析を踏まえて作成した学級別の「学力向上プラン」に基づいて取組を実践し、課題の領域（観点）について、学力向上を目指す。

■児童アンケート「分かりやすい授業である」（90%以上）
「家庭での学習習慣が身に付いている」（85%以上）を目指す

学力向上プランの活用

○各種学力調査の結果を踏まえた学級ごとの「学力向上プラン」を作成し実践する。
○学期ごとに見直し修正する。
→ 授業参観・面談で進捗状況を確認する。

校内研修の研究への取組

○主体的に学びに向かう子どもの育成
→ ICT を活用した学習指導
→ Qubena を活用した自主学習の奨励

生活習慣の形成・家庭学習の充実

○生活リズムのある規律正しい生活習慣の形成
→ 「元気アップカード」の取組
「あはは運動」の奨励
○学習内容の定着を図る工夫
Qubena の活用
(目標 100 問/週、正答率 80% 以上を目標に設定する)

その他

* 週 1 回の「読書タイム」
* 学校サポーターの活用

「P→D→C→A」サイクルを生かした方策の改善と目標の実現